

子ども会（学習会）だより

MY SKY No.22

マイ・スカイ

1997年10月28日火曜日発行(毎週火曜日きまぐれ発行)

発行者

板野中学校

学習会

編集・文責:吉成士

あの～。以前からご連絡してるのでですが、「同和教育・部落問題についての研修がたりないなあ」と思ってるあなた！「もっとざっくばらんに勉強してみたいなあ」というあなた！「研修会がないんだよなあ」と文句タラタラのあなた！不満を膨らますくらいなら、週末の勉強会においててください。以前の2・3人という寂しさに比べ、最近は絶えず6人くらいでやってるので来やすいですよ！

間違っても誤解のないように！その道のエキスパートが集まってるわけではありません。分かってない者が集まって、ただワイワイやってるだけなのです。お間違いなく！

「暗いと不平を言うよりも、進んで明かりをつけましょう」ですよ！ねつ、宮井先生！



## ☆ 第4回板野中学校同和教育研究大会報告！！(10月15日；板野中学校体育館)

遅くなりましたが、届けられた板中同研の感想文です。ご覧になってください。

今日の全体学習は、しんだいなあ～と思っていたケド、すんごく貴重なことだと思いました。先輩の授業を、私たち1年生や3年生の先輩の人と一緒に考えを広げていくということは、板中でないとできないことだと思います。

5時間目は、2Cの授業で先生がみんなに考える時間をくれました。私はその時、考へても分かりませんでした。“人間らしい生き方”ということ。私は2Cの人の意見で「人それぞれ」と聞いて、具体的に言ってくれないと分からぬと思いました。でも人の意見を聞いているうちに分かった。「自分の夢への道を広げていくこと」ということが分かりました。

それから、友達と仲間のこと。友達と仲間というのは、私は違うと思います。友達は自分の身近なところでいて助けてくれます。仲間というのは、みんなが力を合わせれば何でも分かるっていう感じで、“みんなで”ということを示していると思います。

6時間目では、1～3年生までのみんなの意見が聞けました。私の頭の中では、考えがまとまつていませんでした。どうしてかな？って自分でも思った。緊張ということもあったけど、一番心に残ったのは、最後の方で3年生の人が「友達は切れない」って

ことを言っていて、私は心からお互いに友達だと思えるように卒業するまでにつくれたらイイと思います。私も友達が切れるということはイヤ。そしてそんな人、友達だと思えないと思います。切れるような友達はいないと思います。先生方の意見もいろ<sup>々</sup>聞けてとってもイイ全校全体学習だと思います。

1年女子

★ ☆☆ ★★★☆☆ ★★★ ☆☆ ★

全体学習が終わって、いつもより発表が多かったなあと思った。一人一人違った意見を聞けてよかったです。1年and2年に一言 高校は義務教育にはならんぞ!!(たぶん)だってそーなると教室のことや(人数多くなる高校もあるだろう)<sup>せいぎん</sup>税金で買っている教科書のせい<sup>しょうひせい</sup>で消費税また上がるとか……いっぱい問題あり。それに来年か2年後義務教育になると、受験勉強した私たちって……。

3年女子

★ ☆☆ ★★★☆☆ ★★★ ☆☆ ★

私はMくんてすごいと思う。みんなは「Mくんは言ふこととしよることが違う」って言うけど、それは私たちも同じやし。

それと今日の全体学習で思ったことは、私たちは高校って自分のやりたい仕事に近づくための場所だと思う。けど、私にとってのいい高校って、やりたい仕事に近づける高校じゃなくって、やっぱり誰でも行けんようなレベルの高い高校だと思う。レベルが高かったらいいとかいうんちゃうけど、すごいと思ってしまう。でもいい高校へ行けんでも、自分のやりたい仕事に向けての高校へ行ければいいから、私はいい高校とかはあんまし考えなかつた。これからテストいっぱいあるし、行きたい高校に行けるように頑張りたい。

3年女子

★ ☆☆ ★★★☆☆ ★★★ ☆☆ ★

5・6時間目に全体学習があった。私は簡単におかーさんとかにでも高校行きたくな<sup>いや</sup>いと言って受験から逃げているような気がする。私ははっきり言って、勉強するのが嫌になって逃げようとしているから、そんなに簡単に行きたくないって言ふけど、反対に本当に行きたくない人とか行けんような人がその言葉を聞いたら「なんなこいつ、ほんまわ行くのに簡単にそんなこと言うな」ってなってしまうと思う。

今の世の中、中学卒業で何ができるんだろう。バイトとかもできんし。やれる仕事なんて限られてくる。でも、行かん人でもその人の生き方なんだし、後悔するのも自分。あーこの道選んで良かったなって思うのも自分。

私の将来の夢は、プロサーファーになるん。自分の好きなことやって、お金がもらえる。大会に出たからもらえるんじゃない。優勝しなくてはお金はもらえない。思ってみれば、普通の仕事の方が長い目で見ると安定している。でも、私はプロのサーファーに

なる。そのお金で、お父さんやお母さんとか家族の人に旅行に連れていくってあげるん。

(笑)あと、すっごい欲言ったら社長夫人になるん。豪華な家に住むん。で、お手伝いさんがおって、掃除とかしてもらうん。でも、よう考えたら、普通が一番やな。マンションに住んだりしてみたい。夢っていっぱいあるよな。高校生になったら、自分のしたいことをいいっぱいするん。

3年女子

他にもいただいたのですが、紙面の都合上すべて載せることできませんでした。ごめんなさい。今回は本当に久しぶりに、さわやかな熱を感じることができました。「生徒と私たち教師が作り上げ、分かり合っていく学習」という原点が垣間見れたような気がします。こんな実践を、繰り返し繰り返し積み上げてみたいものです。みんなで一緒になって頑張れば、一人一人が無理をする必要がなくなります。みんなで頑張ってみましょう!

今回頑張りきれなかった人、次回に向けて「今」からがんばってみましょうね!



先日本校に徳島大学の学生さんが来校し、「今週末に行われる大学祭にぜひお越しください」と案内してくれました。ちょうど前の日曜日の徳新にその記事が載っていたので、ここで紹介しておこうと思います。

徳

# 慰安婦問題考え方

講演会  
来月1日に

講演会は午後二時、徳島市南常三島町の常三島キャンパス・共通教育棟B館で開演。「加害責任を認めることが、再び戦争を繰り返さない」ととの立場を取る平和遺族会全国連絡会の西

徳大新聞会員が企画した。中学校の歴史教科書から「従軍慰安婦」の記述削除を求める動きがある中、徳島大学の大学祭行事の一環として十一月一日、同大キャンパスで講演会「従軍慰安婦」問題と教科書問題を考えるが開かれる。徳大新聞会員、昨年の大学祭で元「慰安婦」の現在を描いた韓国のドキュメンタリー映画「ナヌムの家」を上映した同実行委員会(委員長・三村元)は

大祭

## 教科書などテーマ

教科書からの記述削除を求める動きは、地方議会に陳情を出す形で広がっており、徳島県議会に川重則事務局長(七〇)が講師を務める。入場整理料として一般八百円、中・高校生五百円が必要。

は六月に提出された。これに対抗して、削除反対の陳情・請願も市民団体などから多数出されている。県議会六月定期会ではいずれも継続審査となり、二十九日開会の十月定期会で審議される予定。

「従軍慰安婦」問題は既に一九九三(平成五)年、軍の関与と「強制性」を政府が認め、橋本首相も昨年「おわびの手紙」を元「慰安婦」に送った。さらに今年三月、国連人権委員会が「性奴隸」だったとする調査結果を公表した。また、三月には、国際労働機関(ILO)が「ILOが当たる」との報告書を出

すなく、国際的な関心も高い。

板野ずっと過ごしていると、高校のイメージはあっても大学のイメージってなかなか得られないと思います。ぜひこの機会に大学のキャンパスに入り込み、大学というものを身近に感じてみてください。もしかすると大学に行きたくなるかもよ。徳島駅から歩いて行けるのでぜひ！！

なお講演会の入場券(一般800円・中高生500円)が必要な方は、吉成までご連絡を！持ってます～！他にも11月3日には、以前紹介した「松本治一郎伝・夜明けの旗」が無料上映されるようです。こちらの方にも、友達と誘い合わせて行ってみてください！

10月28日(火) 解放子ども会(6:00~; 総合センター)

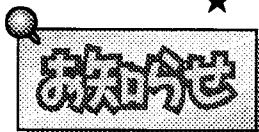
30日(木) 第1学年第3回全体学習(1年C組資料「わたしの心」)

31日(金) 「同和教育・部落問題」勉強会(19:30~;郡頭教育集会所 テーマ「解放の父・松本治一郎等のビデオ」)

11月1日(土) 徳大祭西川重則講演会「徳重慰安婦問題と教科書問題を考える」(14:00~共通教育棟B館)

3日(月) 徳大祭「夜明けの旗～解放の父・松本治一郎～」上映会(①10:00②13:00③15:00; B館305)

4目(火) 中間テスト



以前PTAの会で話していたとき、「同和教育の会に行けるな

ら行きたいとは思うんだけど、いつあるのかわからない」と保護者

の方に言われたことがありました。うれしいことです。結構他の町では、PTAや地域の方々も参加しているので、板野町もそうなればと思っていたのです。行ける方、興味ある方、ぜひ一緒に参加してみましょう！きっと何かが得られると思いますよ！詳しくは、中学校の阿部または吉成までご連絡ください。

10月28日(火) 徳島県PTA指導者研修会(10:00~;文化の森)

11月6日(木) 第41回板野郡同和教育研究大会(吉野町)

11月16日(日) P T A 参観人権フォーラム(本校体育館)

11月29日(土)~12月1日(月) 第49回全国同和教育研究大会(熊本県)



## 同和教育講演会録 『私の歩んできた道』⑥

き続いでなるもんか』

それから、同和教育関係の本や資料を次から次へと読んでいくようになりました。いろんな研修会や町が行ういろんな会合にも、疲れていても必ず参加するようになりました。

私はこれまで、

「差別は、貧しいから、貧乏だから差別を受けるんだ。そして差別を受けたから差別を受けるので、そこでは生まれた以上、私はこのことから逃げることはできないんだ。仕方のないことなんだ。自分が部落に生まれたことは、仕方のないことなんだ」と、なぜ差別をされるのか分からぬまま、あきらめるほうへ自分に納得させて、これまで生きてきました。

しかし、どの資料を見てもどの研修会に行つても、この問題に関わる対象地域の人々が差別を受けなければならぬ理由は、どこにも見当たりませんでした。差別される理由がないのです。

私はこの時初めて、「この問題から逃げてはいけない」と思いました。

「三人の子どもたちに、これまで歩んできた私の人生の嫌な一面を味わわせてなるもんか。三人の子どもの代にこの問題を残してなるもんか。引

そう思つたとき私は、この問題に正面からぶち当たつて、こうと決心しました。部落の作られた歴史を学び、いろんな会に出席していく中で、私は逃げることしか知らなかつた自衛隊の二年間を思い出しました。私にとって、自衛隊の二十二年間は何だったんだろう。

差別をされないために金を貯めることには専念したが、その他のことでは、特にこの問題に関わる点ではいつも逃げていた。そのことに正面からぶち当たることなく、逃げることしか考えていなかつた。そんな自分の二十二年間が、悔やまれてなりませんでした。

金を貯めることには、私は本当に努力しました。訓練のとき汗をかき、のどが渴き、訓練が終わると同時に同僚は売店に行き牛乳を飲んでいた。そのと

き私は、人目を避けるようにして水道の蛇口に口をつけ、のどの渴きをいやしておりました。そんなにして蓄えた金が、ある額に達しました。しかしその金の力によって、私に対する差別の鋒先は一つも変わることはありませんでした。

差別は、貧困の他にも原因はあるんだ

そう思い、勉強をずっと重ねておりました。そしていろんな会にも行つて勉強する中で、私はふと、数年前自分の生ま

れ故郷が妻に暴かれ、離婚を申しつけられ、頭を下げるしか手だてのなかつたあのときの慘めな自分の姿を思い出しました。

「詫びることはなかつた。結婚する前に部落の生まれを言わなかつたから」といつて、そのことを追求されたこ

ともなかつた。部落に生まれたことを隠すこともなかつた。妻と私は同じ立場だった」

そう思つたとき、居ても立つてもいらぬ想いが胸に湧いてきました。

私はその理由は言わない。自分で学んで自分なりに理解してくれ。それが三人の子どものためだし、お前のためだし」

そう話をしました。

それから妻もこの問題に対しても、真剣に取り組み始めました。いろんな研修会で勉強してきたことは家に持ち帰り、そして

「今日はこんな勉強をして、私はこのことについてこう思う」

そういうことを、家庭の中で食事をしながらでも会話をすることが多くなつていきました。家庭内で、私と妻との

夫婦生活の中ではありませんでした。何物にもまさる私の心の財産だと思いま

した。私には、妻に言われたことが長い間重い荷物としてずっとのしかかつておりました。妻もまた勉強をする中で、その重みに気づいてきたのだと思

います。私たち同和教育をすること

で、妻も私も長い間心の中で理解できなかつたこだわりを、わだかまりを取り去ることができました。私はこの時、

手をついて私に謝つてくれました。私はうれしかつた。心の中が洗われてい

く思ひでした。結婚してこの時ほど

この地に嫁いできた妻の立場で、この問題に取り組みます。だから許してください」

手をついて私に謝つてくれました。私はうれしかつた。心の中が洗われてい

く思ひでした。結婚してこの時ほど

この妻をいつまでも大切にしよう。

しなければいけない」

お父さん、ごめんなさい。

そして一年ほど経過したときでした。

その夜妻が私にこう言いました。

「あなたが部落出身だということを知つたとき、『結婚しなければ良かつた』そう思つた私の心が恥ずかしく、人としての道に背くことであつたとよく分かりました。

お父さん、ごめんなさい。

長い間辛かつたでしょ。これからはこの地に嫁いできた妻の立場で、この問題に取り組みます。だから許してください」

手をついて私に謝つてくれました。私はうれしかつた。心の中が洗われてい

く思ひでした。結婚してこの時ほど

この妻をいつまでも大切にしよう。

しなければいけない」

そう強く感じたことは、これまでの結婚生活の中ではありませんでした。何

物にもまさる私の心の財産だと思いま

した。私には、妻に言われたことが長

い間重い荷物としてずっとのしかかつておりました。妻もまた勉強をする中で、その重みに気づいてきたのだと思

います。私たち同和教育をすること

で、妻も私も長い間心の中で理解できなかつたこだわりを、わだかまりを取り去ることができました。私はこの時、

妻の夫婦になれた……」